

# NEWSLETTER

# No.68

# 9 January 2018

・2017年地理学教室の行事記録	・・・・・・1
・第17回地理ワークショップの開催	・・・・・・2
・2017年度国土館大学地理学会夏季巡検（+勝巡検）報告	・・・・・・3
・2017年度地理実習の記録	・・・・・・5
・卒業論文公開口頭試験について	・・・・・・9
・2017年度卒業論文公開口頭試験日程	・・・・10
・国土館大学地理学会費の納入について	・・・・13

## 【2017年地理学教室の行事記録】

1月 8日	世田谷の歴史地理巡検（岡島）
2月 6日～ 8日	2016年度卒業論文公開口頭試験
2月18日～ 19日	福島農村実習（宮地）
3月14日～ 15日	国土館大学地理学会巡検（埼玉県長瀬・秩父・飯能方面：磯谷）
3月19日	学位記授与式
5月 3日～ 5日	福島農村実習（宮地）
5月14日	野外生物観察会（生田緑地：磯谷）
5月24日～ 25日	地理学野外実習A (1年生実習, 川崎市麻生区黒川地区：専任教員全員)
6月10日	国土館大学地理学会（10329教室） <総会> <講演会>「カラコラム山脈における自然環境と最近の氷河変化」 梶山貴弘先生 <懇親会>1号館1階学生ラウンジ
7月 7日	食と農の地理学 築地市場巡検（宮地）
7月 7日	卒業論文公開口頭試験（9月卒業予定者）
7月29日	第17回地理ワークショップ（柴田会館3階会議室） <テーマ>「自然地理の教え方Ⅰー地形ー」 (講師：長谷川裕彦先生, 小林洋一郎先生, 藤田 晋 先生)
8月24日～ 9月 1日	沖縄本島サンゴ礁調査（長谷川・中井）
8月29日～ 31日	国土館大学地理学会巡検（北海道鹿追町方面：磯谷・宮地）
8月30日～ 31日・9月15日～16日	測量実習（世田谷校舎・若林公園：海津）
9月15日	日本の土壌環境野外授業（町田キャンパス：三浦・磯谷）
9月23日～ 24日	福島農村実習（宮地）
10月 3日～ 4日	地理学野外実習B（2年生実習：専任教員全員）
10月23日～ 26日	地理学野外実習C（3年生実習：専任教員全員）
11月 2日～ 3日	国土館創立100周年記念行事「伊能図がやってくる！（伊能図展）」 (10号館5階旧剣道場)
12月16日	国土館大学地理学会（34号館B203教室） <研究発表会> 田口勝利, 石井大輔・佐藤諒英, 久保秀平・前田桃子・赤井廉能・ 根本鈴香・太田真徳, 渡辺聖輝, 高木今日太, 麻尾一成・小澤隼人, 稲田悠佑 <講演会>「ネパールにおける気温と水の環境地理調査」 中村圭三先生 <懇親会> 34号館地下食堂

## 【第17回地理ワークショップの開催】

### テーマ:「自然地理の教え方Ⅰ—地形—」

地理学教室では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で、2001年度より「地理ワークショップ」を開催してきました。17回目となる今年度は、7月29日に柴田会館研修室で行いました。

今年のテーマは、「自然地理の教え方Ⅰ—地形—」です。以前より地理学専門ではない先生方を中心に自然地理の内容が教えにくい、あるいは理解しにくいという声を耳にすることは多く、また昨年度の「災害の地理」の内容が好評であったことから、今回と次回で「自然地理の教え方」を考えることにしました。今回は地形の分野について、「社会科教師を目指す学生たちに向けての地形学講義でどのような工夫をしているか」に重点を置く大学教員の立場からの講義と、教育現場での実践について中学・高校の教員の立場から話題提供をいただいたうえで、参加者によるグループごとの情報交換・意見交換、全体討論を通じて多彩な意見が交わされ充実した一日になりました。参加者は18名。

(岡島 建)

プログラム：7月29日（土）9：40～17：00

開会の言葉・趣旨説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・岡島 建

講義・1「自然地理学の基礎：時空間スケールの認識・プレートテクトニクス理論」・・・・・・長谷川裕彦（明星大）

講義・2「地形の成り立ちを理解するための基礎：河川の作用と氷期・間氷期変動」・・・・・・長谷川裕彦（明星大）

話題提供・1「地形学習の授業実践」・・・・・・・・・・・・・・・・小林洋一郎（鎌倉女子大中・高）

話題提供・2「地形と防災を学ぶ」・・・・・・・・・・・・・・・・藤田 晋（文理開成高校）

まとめ・閉会の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・宮地 忠幸

※講師の先生：敬称略

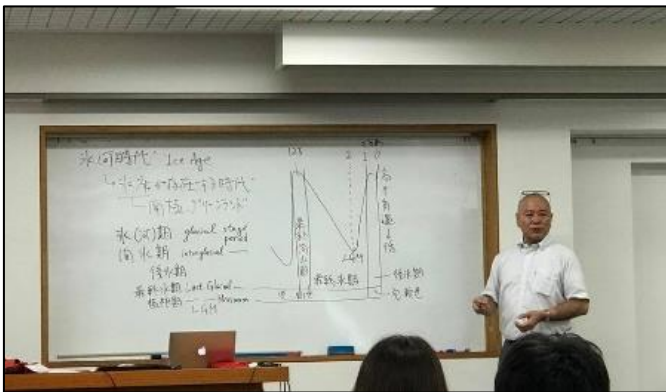


写真1. 長谷川先生の講義の様子



写真2. 小林先生の講義の様子



写真3. 藤田先生の講義の様子



写真4. ワークショップの様子

## 【2017年度国土館大学地理学会夏季巡検（十勝巡検）報告】

2017年度第1回目の巡検となる夏季巡検が、2017年8月29日～8月31日に北海道十勝平野（鹿追町を中心に）で実施されました。参加学生は18名で、磯谷先生と宮地先生に引率をいただきました。テーマは「十勝平野北西部の自然環境と人々の暮らし」でした。十勝平野北西部の鹿追町を中心に、十勝の食も楽しみながら、地理学的な視点から見学をしました。

日 程：2017年8月29日（火）～8月31日（木） 《2泊3日》

テ ー マ：「十勝平野北西部の自然環境と人々の暮らし」

引率教員：磯谷達宏先生・宮地忠幸先生

集合時間・場所：8月29日 9：30 とかち帯広空港ロビー，10：30 帯広駅前

解散時間・場所：8月31日 16：00 帯広駅前，17：30 とかち帯広空港

コース（移動手段：バス\_\_\_\_\_徒歩- - -）：

8月29日

とかち帯広空港9:35Dep. \_\_\_\_\_ 10:25Arv.帯広駅前10:35Dep. \_\_\_\_\_ 11:30Arv.大草原の小さな家  
（昼食13:00Dep. \_\_\_\_\_ 13:20Arv.鹿追町環境保全センターバイオガスプラント※1 15:00Dep.  
\_\_\_\_\_ 15:30Arv.農事組合法人 西上宮農組合ヒアリング※2 17:00Dep. \_\_\_\_\_ 17:20Arv.大草  
原の小さな家17:40Dep. \_\_\_\_\_ 18:40Arv.音更市街（夕食，入浴）20:30Dep. \_\_\_\_\_ 21:30Dep.  
大草原の小さな家

8月30日

大草原の小さな家9:00Dep. \_\_\_\_\_ 9:30Arv.とかち鹿追ジオパーク・ビジターセンター10:20Dep.  
\_\_\_\_\_ 10:40Arv.扇ヶ原展望台11:00Dep. \_\_\_\_\_ 11:50Arv.カフェムバンチ（昼食）12:40Dep.  
- - - 13:00Arv. 然別湖畔※1, 2 15:00Dep. \_\_\_\_\_ 15:30Arv.鹿追町市街地 17:30Dep. - - -  
18:00Arv. 然別川河川敷（夕食）21:30Dep. \_\_\_\_\_ 22:00Arv.大草原の小さな家

8月31日

大草原の小さな家9:00Dep. \_\_\_\_\_ 9:30Arv.上幌内 10:30Dep. \_\_\_\_\_ 11:30Arv.柳月スイートピアガーデン  
12:30Dep. \_\_\_\_\_ 13:00Arv.帯広市街地（昼食）14:00Dep. \_\_\_\_\_ 14:15Arv.帯広百年記念館  
15:00Dep. \_\_\_\_\_ 15:10Arv.帯広競馬場（ばんえい競馬場の見学）16:00Arv.帯広駅16:00Dep.  
\_\_\_\_\_ 16:30Arv.幸福駅17:10Dep. \_\_\_\_\_ 17:30Arv.とかち帯広空港

図1 巡検の行程表

とかち帯広空港を出発後、早速、バスの車窓から見える十勝平野の景観から、十勝平野の地形的な特徴や農業の特徴について、磯谷先生と宮地先生から説明がありました。帯広駅で数名の参加者が加わったのち、鹿追町へ向かいました。昼食は、今回の巡検の宿泊地でもあった「大草原の小さな家」で、十勝平野で産出されている農畜産物を原料とした豊富な食材をバイキング形式でいただきました。満腹になってから、いよいよ本格的な巡検が始まりました。

まず見学したのは、鹿追町環境保全センターです。ここは、国内最大の家畜糞尿処理施設として知られています。鹿追町環境保全センターでは、家畜から出る糞尿や鹿追町内で出される生ごみを、堆肥（写真1）やバイオガスに変え、地域農業の生産力向上に役割を果たしたり、バイオガス自動車の燃料や発電などに利用されたりしています。ここで生み出される電力は、地域で消費するだけでなく電力会社に売電もされているそうです。また、発電の際に生まれる余剰熱は、チョウザメの飼育やマンゴーの栽培にも活用されています（写真2）。



写真1 堆肥プラント



写真2 余熱を利用したチョウザメ飼育

次に、鹿追町の西端に位置する上幌内において、農事組合法人 西上営農組合の農業経営についてヒアリングさせていただきました（写真 4）。途中、組合の所有する大規模な農業機械も見学させていただきました。パレイショや小麦、てん菜（ビート）などの畑作物を約 43ha の経営耕地で栽培していることや輪作の工夫、土づくりの取り組み、生産効率をあげるための取り組みなどについて話を伺いました。



写真 3 西上営農組合でのヒアリング



写真 4 巨大な農業機械の数々を見学

2 日目は、鹿追ジオパークに関する見学をしました。ネイチャーセンターにおいて、十勝平野の成り立ちや鹿追ジオパークの特徴などについて学んだ後（写真 5）、扇ヶ原展望台から十勝平野を眺望し、然別湖へ移動しました。昼食をとった後、然別湖畔でネイチャーガイドの方にお世話になって、この地域で観察できる動植物の見学をしました（写真 6）。「氷河期の生き残り」と言われるナキウサギをみようと思いましたが、残念ながらみることはできませんでした。でも、キタキツネをみたグループはありました。

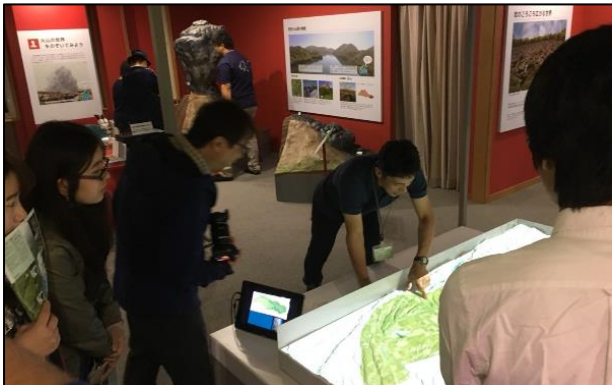


写真 5 鹿追ジオパーク・ネイチャーセンターの見学



写真 6 然別湖畔での動植物観察

その後、鹿追町の市街地へ戻り、スーパーマーケットにおける販売商品や価格を見学してから（一部の学生や先生はお土産等を買っていただきました）、夕食会場となった然別川河畔のバーベキュー場へ向かいました。この日の夕食は、十勝産の牛肉、鶏肉、馬肉、そしてつぶ貝など、北海道の食材満載でした。

最終日は、上幌内の畑作景観を見学（写真 7）した後、上士幌町を經由して帯広市内へ戻りました。途中、この地域の大手食品メーカーである柳月の工場と販売店に立ち寄り、小豆加工の様子を学びました。午後は、帯広百年記念館やばんえい競馬場を見学し、帯広駅、とち帯広空港でそれぞれ解散となりました。

今回の巡検を通して、私たちは様々なものを学ばせていただきました。本州とは違った風土での人々の暮らし、また自然豊かな十勝平野の自然地理的特徴など、授業だけでは学ぶことのできない貴重な見学となりました。今回の巡検の参加者に、「十勝の自然と人々の暮らし」について少しでも理解を深めてもらえていれば嬉しく思います。今回の巡検の企画段階から親身に相談にのっていただいた磯谷先生と宮地先生、さらに現地でお世話になった皆様に感謝します。ありがとうございました。

国土舘大学地理学会 西原崇太（行事部）  
竹俣 基（編集部）



写真 7 鹿追町上幌内のビート畑

※写真 1～4, 7 は磯谷先生撮影・提供, 写真 5～6 は西原撮影.

## 【2017 年度地理実習の記録】

地理学野外実習 A : 5 月 24 日 (水) ~ 5 月 25 日 (木) 実施

◎ 長谷川・内田・岡島・磯谷・加藤・宮地

実施地 : 川崎市麻生区黒川地区

参加学生数 : 53 名 (男子 44 名, 女子 9 名)

テーマ : 丘陵地の自然環境と人間生活

目的 : 多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い, 地形と土地利用の関係, 都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて, 地理調査や地理的思考法の基本を体得する.

課題 : 図表を含めて 400 字詰め原稿 10 枚以上相当のレポート.  
提出日時 ...7 月 11 日 (火) 5 限「地域調査法」の授業時



写真 1. 最初に地形や植生の見方を学びます



写真 2. 多摩丘陵の土地利用調査 : データは足でかせぐ !



写真 3. 長谷川先生からアドバイスを受ける学生たち



写真 4. 一日目の夜のミーティング



写真 5. 2 日目 : 谷戸の地形と植生を観察

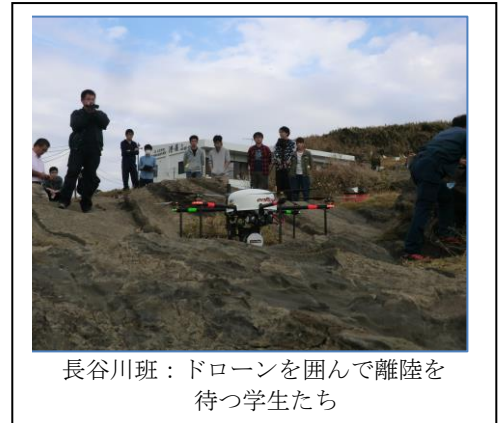


写真 6. 2 日目 : まとめの授業 (加藤先生)

地理学野外実習B（2年生対象）：10月3日（火）～10月4日（水）実施

◎長谷川

実施地：神奈川県三浦市周辺（三浦半島南部と城ヶ島）  
参加学生数：11名（男子10名，女子1名）  
テーマ：三浦半島・城ヶ島で地形を観る  
内容：三浦・城ヶ島コースでは，三浦半島で見られる海岸地形，侵食地形，地層の観察を行った．また，今年は卒業生が勤務する航空測量会社のデモンストレーションも行った．高精度に測量が可能で三次元図面を出力できる3Dレーザ測量ドローンによるレーダー計測を行った．最新技術を駆使した調査方法に学生らが驚きと強い関心を持ったようである．  
課題：調査結果に基づいて，A4版20～30枚のレポートの作成．



◎内田

実施地：塩尻市贄川地区・奈良井地区，下諏訪町  
参加学生数：7名（男子6名，女子1名）  
テーマ：観光地の調査と観光地の場所イメージの解説  
内容：①風景論の基礎，および風景の観賞方法について実習する．②歴史観光地（旧宿場町）の景観や観光施設が，どのように保存され，また修景されているのかを観察・調査する．③「中山道」「木曾路」あるいは「信州」のイメージが，観光資源としてどのように利用されているかを調査・考察する．  
課題：レポート3本を作成する：  
①歴史観光地の風景の特徴とその地域的広がりについて  
②旧中山道奈良井宿における伝統的建造物の分布と特徴について  
③観光地の記号としての「中山道のイメージ」



◎岡島

実施地：千葉県佐倉市  
参加学生数：参加学生数：7名（男子7名，女子0名）  
テーマ：近世城下町佐倉の近現代における変遷  
内容：佐倉の歴史的町並みを中心とする地区における観察調査および住民への聞き取り．佐倉武家屋敷・旧堀田邸・佐倉順天堂記念館および国立歴史民俗博物館の見学．歴史的町並みの調査結果に基づく地図を作成し，考察する．  
課題：標記のテーマについて所定の分量のレポートを作成する．なお夏休みに事前学習を行っている．



◎磯谷

実施地：長野県蓼科方面  
参加学生数：15名（男子10名，女子5名）  
テーマ：山地帯～亜高山帯の植生  
内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した．  
課題：指示された項目にしたがって，この地域の植生について図表を含めてA4版20枚程度のレポートにまとめる．



◎加藤

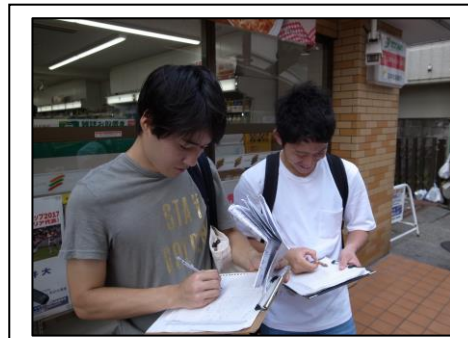
実施地：東京都武蔵野市

参加学生数：9名（男子8名，女子1名）

テーマ：東京都武蔵野市におけるコンビニエンスストアの立地展開

内容：対象地域におけるコンビニエンスストアの立地について、過去のデータのデータと比較しながら、その変遷を把握し、その要因を考察する。とりわけ「消滅」店舗に注目して、「消滅」の要因に関する仮説をいくつか立て、それを立証するための調査を行うようにする。これを通じて、経済地理学的な調査の方法・経済地理学的見方・考え方の基礎を学ぶ。

課題：調査結果に関する図を作成し、調査結果にもとづいた内容についてレポートする。



加藤班：調査中

◎宮地

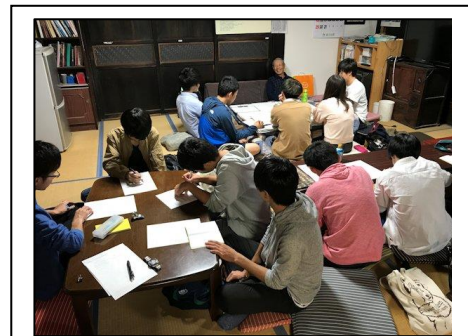
実施地：群馬県川場村

参加学生数：14名（男子12名，女子2名）

テーマ：農村における地域資源を活用した特産品づくり

内容：農村振興策の一つとして位置づけられる特産品開発の実態を調査した。とくに、近年の川場村で取り組まれているリンゴやブルーベリーなどの果実を使った特産品開発（ジュース、ドレッシング、菓子類）の実態を、村役場、農業生産者、加工品製造業者、地元の直売店等でヒアリング調査した。

課題：現地での調査結果をもとに、図表を含めA4版12枚以上のレポートにまとめる。



宮地班：川場村のむらづくりを先導した宮田さんと学生たち

地理学野外実習C（3年生対象）：10月23日（月）～26日（木）実施

※長谷川ゼミ・中村ゼミは、台風の影響で10月24日（火）～27日（金）に実施。

◎長谷川・中村（合同）

実施地：東京都大島町（伊豆大島）

参加学生数：8名（中村ゼミ 4名，長谷川ゼミ 4名）

テーマ：班ごとにテーマを設定し、現地調査を行う。

内容：台風の接近で船が欠航になったため、一日順延スケジュールで実施された。中村ゼミは、主に気温観測に特化した観測を実施した。伊豆大島北西部の元町を中心としたヒートアイランドの観測、海岸から三原山山頂までの山腹斜面に沿った気温の垂直分布の観測を実施した。

長谷川ゼミでは、火山地形班と海岸地形班に分かれてそれぞれ調査を行った。火山班は、三原山東側山腹に広がる裏砂漠で表層堆積物の調査を実施した。降下火山灰の粒度分布を、火口からの距離や風向を考慮した分析を試みた。海岸地形班は、大島北西端にある海浜で、ドローンによる3D精密測量を試み、地形解析を行った。堆積物の分布を調べるための採取作業を行った。

課題：現地で得たデータをもとに、A4版30枚程度のレポートを作成するとともに、A0版のポスターを作成する（長谷川ゼミ）。



長谷川ゼミ・中村ゼミ：  
ようやく晴れたふ頭で、ジェット船に  
乗り込む中村圭三先生と学生たち

◎内田

実施地：大阪市およびその周辺地域

参加学生数：11名（男子11名，女子0名）

テーマ：学生各自でテーマを設定し，現地調査を行う。

内容：大阪市北区における戸建て住宅取得者の居住地移動，大阪に住む女性のライフステージから見た観光行動，大阪市城東区における高齢者の移動特性，神戸北野異人館街における観光客の観光行動について，京都御所における公園内の行動と空間利用について，アニメ聖地巡礼が観光客へ与える影響－京都府宇治市を事例に－，京都叡山電鉄におけるコンテンツツーリズムへの取り組みと利用客の反応，琵琶湖周辺におけるハレの日とケの日の料理，観光客の観光目的による行動ルートの変化－奈良県を事例に－，など。

課題：各自設定したテーマにしたがって，現地で得たデータをもとに分析・考察を行う。



内田ゼミ：ミナミの名所・戎橋で記念写真

◎岡島

実施地：名古屋市および周辺地域

参加学生数：14名（男子14名，女子0名）

テーマ：歴史地理学・交通地理学等に関する地域調査

内容：岡崎城下町の歴史の変遷と地域構成，犬山城下町の歴史の変遷，岐阜旧城下町の変容，堀川の歴史の変遷と現状，第3セクター鉄道の利用実態，新交通システムが失敗した事例，瀬戸市におけるコミュニティ交通の導入過程と実態，町並み保存地区における土地利用と保存，重伝建地区有松の保存の実態，空港開業に伴う周辺地域の変化，高速道路開業前後における沿線地域の変化，リニモ開業前後の沿線状況，ほか

課題：各自のテーマに従ってレポート作成。



岡島ゼミ：有松の歴史的町並み

◎磯谷

実施地：鳥取県倉吉市とその周辺

参加学生数：11名（男子9名，女子2名）

テーマ：鳥取県県北部の生態地理

内容：鳥取県倉吉市付近でみられる動植物の生態地理について，各自・各班が事前にテーマを設定して調査した。具体的に選ばれたテーマは，「雑木林の樹種構成」，「河辺草原の分布と種組成」，「哺乳動物の分布と獣害」であった。

課題：図表を含めてA4版30枚程度のレポートにまとめる。



磯谷ゼミ：倉吉市内の里山にて

◎加藤

実施地：新潟県上越市

参加学生数：4名（男子4名，女子0名）

テーマ：各自が設定したテーマにもとづいた現地調査・地域調査を行う

内容例：上越市高田本町商店街の現状，上越市の都市計画と住民の意識・行動，上越市のスキー場

課題：各自のテーマについて，『卒業論文の手引き』にもとづき，レポートをまとめる。



加藤ゼミ：夜のミーティングにて



◎宮地

実施地：長野県山ノ内町

参加学生数：16名（男子10名，女子6名）

テーマ：班ごとに設定したテーマにもとづいて現地調査を行う。

内容：①特産品班：地場産農産物を活用した特産品開発の実態とその地域経済効果，②農村観光班：スキー観光地の観光関連事業の展開と宿泊業の現状，③農業班：果樹産地の存続へ向けた取り組みの実態，④過疎・地域づくり班：過疎化の進展と過疎対策の現状，をテーマに現地調査を行った。

課題：班ごとにA4版30枚程度（図表含む）のレポートにまとめる。



### 【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では，卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し，さらに公開口頭試験の結果を加味して可否を決めています。今年度も下記の通り，卒業論文の口頭試験が行われ，試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は，持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨，図表などをまとめたレジュメを用意し，出席者に配布できるよう準備してください。また，質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー，その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは，必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の可否が決まるまで処分しないこと。

**就職が決まり，試験当日に社内研修などが予定されている4年生は，就職予定先に事情を説明し，研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。**

なお評価の結果，優秀な卒論2編は，全国地理学専攻卒論発表大会（2018年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は，2月9日中に決定し，すぐに通知します。

日時：2018年2月7日（水），8日（木），9日（金）10：00～  
場所：世田谷校舎10号館2階 10204教室（階段教室）

#### 注意事項（4年生はよく読んでおくこと）：

※ 試験時間は，1人18分（発表9分，質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し，あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん，発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。なお，発表時は予鈴7分，本鈴9分の合図があります。

※ 発表に際しては，かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと。レジュメはワープロによって作成することが望ましい。

1. レジュメは，論文題目，氏名，論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように，計800字程度を目安にするとよい），説明に使用する図表によって構成する。
2. レジュメの枚数は，A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし，各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと判別しにくい場合はカラーコピーをするか，口頭試験用に図表を白黒で描き直すこと）。
3. レジュメは，発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際，まず教員に配ること。
4. レジュメの文章を，そのまま読むような発表は控えること。口頭試験の発表用原稿を別に用意することが望ましい。

※ 発表では，パワーポイントも使用できる。使用するパソコンは原則として教室備え付けのパソコンを使用すること。発表用ファイルは，午前に発表の者は発表当日の朝，午後に発表のある者は昼休みにパソコンのデスクトップにコピーしておくこと。発表時にUSBメモリーを持参し，そこから起動して使用することもできるが，この場合は一連の作業を含めて発表時間となるので，発表時間が大幅に削られてしまう危険性がある。慣れていない者は，あらかじめ教室備え付けPCにコピーしておくことを奨める。

※ 地域調査士の資格取得へ向けて、昨年から審査前事前請求制度が始まり、3月中に認定証を受け取ることができるようになりました。 資格取得希望者は、1月末（以降）に日本地理学会資格専門委員会から郵送される書類を熟読し、同封されている申請書に必要事項をすべて記入し（顔写真も必要）明記のうえ、口頭試験日程期間中に主査へ提出すること。その後、副査が記名・押印し、一括して返却する。この機会をのがすと「地域調査士認定委員会が指名する者の認定」が面倒なことになるので、卒業予定者は必ずこの機会に行うこと。

※ 3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員出席し、大半の発表を聞くようにすること。1, 2年生もできるかぎり1日以上出席すること。 2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上で、もっとも参考になる行事なので、できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります。

※以下は、口頭試験のプログラムです。

表中の「地調」は地域調査士資格、「GIS」はGIS学術士資格の申請者を示す。

### 【2017年度卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査	地調	GIS
<b>◎第1日目：2月7日（水）</b>						
<b>10:00～12:00 &lt;進行：加藤&gt;</b>						
1	西山 笑莉	国立公園・国定公園におけるロープウェイ建設について	岡島	内田		
2	飯島 実紀	茨城県霞ヶ浦における湖岸植生の分布およびその変遷	磯谷	長谷川		
3	小杉 純平	静岡県浜松市中田島砂丘の地形変化 —空中写真と UAV 空中写真を使った解析から—	長谷川	磯谷	○	○
4	濱住 凧	海浜観光地域における民宿の形成と衰退理由 —千葉県九十九里町を事例に—	内田	宮地	○	
7	岡田 真次	太平洋型ブナ林の立地と更新 —山梨県松姫峠周辺を事例に—	磯谷	長谷川	○	○
8	横山 翔太郎	東京都における水道水源林の管理活動の実態と課題	宮地	加藤	○	
<b>13:00～15:40 &lt;進行：宮地&gt;</b>						
9	鈴木 史也	高速道路インターチェンジ新設による地域の変容について —柏インターチェンジを事例に—	岡島	加藤	○	
10	松永 幸也	湖沼および河川周辺の農業用水路における魚類群集の分布 とその環境条件 —小貝川支流牛久沼を例に—	磯谷	長谷川		
11	平井 大祐	群馬県南東部大間々扇状地における地下構造について	長谷川	磯谷	○	
12	玉置 昂大	愛知県犬山城下町における観光客の目的と行動特性	内田	岡島	○	
13	清水 惇	茶を利用した地域振興への取り組み —静岡県掛川市東山を事例に—	内田	宮地	○	
15	小泉 壮平	福島県御霊櫃峠における周氷河性構造土の成因と分布	長谷川	磯谷	○	
16	佐々木 悠人	茶の消費変化に伴う茶産地の動向と産地存続へ向けた 取り組みの実態 —埼玉県入間市を事例に—	宮地	加藤		
17	稲宮 正美	東京都における信用金庫の立地特性	宮地	加藤		○

16:00～18:00 <進行:岡島>

18	吉田 颯汰	多摩川河川敷における土地利用の経年変化 —多摩川上流域下流部～多摩川河口を対象に—	長谷川	宮地	○
20	立澤 大樹	埼玉県三芳町における農村景観の保全へ向けた 取り組みの実態	宮地	岡島	
22	今里 悠	農業用水路における水生動物の分布とその成立要因 —神奈川県酒匂川中流域を例に—	磯谷	長谷川	○
23	杉田 凱	冒険遊び場の空間利用とその特性 —川崎子供夢パークを題材に—	内田	加藤	○
24	澤田 雅裕	東京下町の地域イメージ —足立区・葛飾区・江戸川区を事例に—	内田	磯谷	
26	山崎 佳奈	東京都における保育サービス需給の地域差の実態と要因	宮地	加藤	○ ○

◎第2日目:2月8日(木)

10:00～12:00 <進行:内田>

27	川崎 大輝	一社一村しずおか運動の成果と課題 —松崎町石部地区棚田保全推進委員会の取り組みを事例に—	宮地	岡島	
32	安藤 将吾	沖縄本島北部で見られる海草海藻群落の分布状況 —嘉陽・赤崎海岸を例とする藻場面積の変容—	長谷川	磯谷	○ ○
33	菊池 達哉	6次産業化の現状と課題 —茨城県の特産品開発を事例として—	宮地	加藤	
35	安藤 嶺	愛媛県西条市の道前平野における 水生植物の分布と環境要因	磯谷	長谷川	○
38	遠藤 慧	南アルプスにおける標高傾度に伴う ダケカンバ林と樹形の変化	磯谷	長谷川	○ ○
40	君塚 拓哉	広島都市圏における利用交通手段の現状	岡島	内田	

13:00～15:40 <進行:宮地>

41	大門 知加	健康志向コンビニの立地と取扱商品について —文京区・千代田区・中央区のナチュラル・ローソンを事例に—	内田	加藤	
42	糸賀 輝	地方鉄道における蒸気機関車の動態保存と利用者の実態 —大井川鉄道を例に—	岡島	内田	○
43	佐藤 孝樹	千葉県佐倉市における「歴史的植生景観」の現状と その残存過程	磯谷	長谷川	○ ○
45	駒崎 友禎	静岡県狩野川中・下流域における沖積低地の 地形環境の変化	長谷川	磯谷	○ ○
46	三枝 豪	高速バスの地域的展開と利用者の特性 —札幌駅前バスターミナルを事例として—	岡島	加藤	
49	横溝 直也	寺社参詣鉄道について —金刀比羅宮に関連する鉄道を事例に—	岡島	加藤	○

50	森 俊輔	大分県東部におけるイノシシによる獣害の実態と 地域住民の対応	磯谷	宮地	
51	佐藤 正樹	定点観察からみる放置自転車の現状と問題点 —大船駅周辺を事例に—	内田	岡島	○
<b>16:00~18:00 &lt;進行:磯谷&gt;</b>					
52	宮原 省太	イチゴ産地間競争下における産地維持のための取り組み —栃木県真岡市を事例に—	宮地	岡島	○
53	渡部 まりや	中目黒における街のイメージと古着屋の立地	内田	岡島	○
54	石川 眞成	沖縄本島と離島の観光地域における宿泊業の形成 —沖縄県名護市・渡嘉敷村を事例に—	内田	宮地	○
55	前平 千晶	近年におけるゲームセンター店舗の特徴と立地 —池袋を事例に—	加藤	内田	○
57	荻原 若菜	長野県における6次産業化の推進事業の展開と 事業者の経営実態	宮地	加藤	○ ○
64	大門 龍弥	鎌倉市における世界遺産登録に対する取り組みと住民意識	内田	岡島	

◎第3日目：2月9日（金）

<b>10:00~12:00 &lt;進行:内田&gt;</b>					
66	岡澤 貴博	河川構造物が魚類群集に与える影響 —荒川水系二河川の中流域を例に—	磯谷	長谷川	○
13	遠藤 敬太	千葉県における宿泊施設の動向	加藤	内田	
41	宇都宮 和彦	金融機関の分布特性と信用金庫の地域貢献 —宇和島信用金庫を事例に—	宮地	加藤	○
74	小池 朝行	Jリーグの「地域密着」	加藤	岡島	
31	長谷川 彩香	野菜の価格動向と産地に与えている影響	宮地	加藤	
33	佐藤 汰嘉	山梨県北杜市における田園回帰の実態	宮地	加藤	
<b>13:00~15:00 &lt;進行:加藤&gt;</b>					
34	田中 大輔	宿場町における歴史と景観の変遷 —旧中山道板橋宿を事例に—	内田	岡島	
40	浜野 善治	旧日光街道の宿場町におけるスギ衰退の現状と その環境要因	磯谷	岡島	
42	伊藤 航平	隆起波食棚における岩石形態と岩石硬度の関係 —神奈川県三浦市城ヶ島を例に—	長谷川	磯谷	
49	鈴木 岳美	八ヶ岳西岳南西斜面における ミズナラーチョウセンゴヨウーカラマツ混交林の分布とその要因	磯谷	長谷川	
66	山本 竜平	国宝松江城における観光客の意識と行動	内田	岡島	
6	曾我部 美紀	東京都における集中豪雨の特徴とその対策に関する研究	中村	長谷川	

## 【国士舘大学地理学会費の納入について】

下記に掲げる学生は、国士舘大学地理学会費（4年分・12,000円）が未納となっていますので、至急支払いください。地理学教室では4年分の会費を納めていない学生については、卒業を認めておりません。いずれ払うことになりますので、早めに納入することを勧めます。会費未納者は、必ず1月末日までに郵便振替で会費を納入すること。期日内に納入しなかった者については、保護者宛てに督促状を再度送ります。

振替用紙は郵便局にありますので、「口座番号：00150-7-161762，加入者名：国士舘大学地理学会」および通信欄に自分の学年と氏名を記入のうえ、所定の金額を窓口またはATMで振り込んでください(ATMでの振込のほうが手数料は安くなります)。

とくに、4年生の未納者は、卒論口頭試験が行われる前に納入を済ませてください。

WEB版は非公開

(注：疑問・質問等は会計担当の内田まで連絡して下さい。なお、上記は2017年12月26日現在の未納者です。)

**重要事項！必ず読むこと！**

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。

4年生で未返却の者は、卒業資格を満たしていないとみなします。